

## 2012年度の事業計画・予算

### ◆はじめに

引き続き、市民、団体、有識者、企業、行政、学校等が幅広く連携し、環境保全活動を協働して展開する基盤としてネットワークの形成と拡大を図り、持続可能で豊かな社会の構築に向け、多様な環境活動を推進します。

また、公益財団法人への移行認定申請（※1）を上期に行い、2013年4月移行に向けた諸作業を鋭意推進します。

#### （※1）公益法人制度改革

2008年に公益法人に関する法律が改正され、すべての財団・社団法人は5年以内に新制度に基づく法人格に移行申請することが求められています。概要は、登記だけで法人格がとれる「一般財団法人」と、高い公益性を審査される「公益財団法人」に分かれることになります。

おかやま環境ネットワークは公益事業を行う法人であるため、「公益財団法人」へ移行申請します。もともと環境保全のための公益活動を事業内容としてきましたので、公益財団法人に移行しても環境活動という事業内容については今までと変わりありません。しかし、公益性について今までより高いレベルを求められることになります。

公益財団法人になるメリットとしては、社会的な信頼度が増すということ以外に、会費や寄附の金額に応じて所得控除の対象となります。

### 1. ネットワーク・広報・研究・助成事業

#### ①. ネットワークのつどい（維持会員総会）

- ・交流強化を目的に、交流会、助成報告会、維持会員総会として開催します。
- ・参加者がお互いの情報を持ち寄り、情報や活動ノウハウをお互いに学び、市民・団体・企業・行政・有識者などの間の壁を越えた連携や支え合いを作る機会とし、お互いの強みや課題を知って、連携するきっかけをつくります。
- ・交流を通じ「今までの活動経験を共有できた、自分たちの活動をみんなに伝えることができた、活動の仲間が増えた、企画募集の広報手段が増えた、協働パートナーが見つかった」等の『情報交換の場』となることと、これまで出会っていなかった人、団体、取り組みなどにつながる『ネットワークづくり』や、『参加者が元気になる場づくり』として具体化します。メンバーの固定化、高齢化、活動の広がりへの欠如など、さまざまな課題について考え交流します。

- ・公益財団法人移行後のあり方について、運営委員会等で検討をすすめます。

#### ②. ホタル団体交流会・ホタルフォーラム

- ・多くのホタルに関する取り組みを実施している団体や個人の参加のもと交流をすすめ、活動の前進を図ることを目的に、ホタル団体交流会、ホタルフォーラムを開催します。
- ・ホタル団体交流会は交流事業として広く参加を呼び掛け、年3回程度実施します。
- ・単行本「ホタルと人と文化」の第2版の出版について検討をすすめます。

#### ③. ニュース、ホームページ、メールニュースの発行

- ・多様な情報発信、情報共有、各主体の交流の促進により、参加、協力を促します。
- ・ニュースは季刊発行とします。専門家、団体、市民、行政関係者、企業などさまざまな観点、立場から多様な考え方などの情報提供、活動紹介をすすめ、読者が複眼的に物事を捉える機会をつくることを目的とします。
- ・メールニュースは引き続き月2回発行し、タイムリーな情報発信をすすめます。
- ・活動紹介パンフレットや事業計画・決算報告書（維持会員総会資料）を作成し、広く活動の理解につなげ、それらを活用した会員獲得にも取り組みます。

#### ④. 環境家計簿活動の普及

- ・環境家計簿の普及を通じ、具体的な削減意識を高め、家庭部門の本格的CO<sub>2</sub>排出削減をすすめ、くらしの見直しを図ります。
- ・モニター報告スケジュール、フォーマット、報告形態等の改善点の定着を図ります。
- ・引き続き、岡山市と協働で「環境家計簿レポート」、「環境家計簿カレンダー」を発行し、啓発につなげます。
- ・2011年度、大幅に増加した環境家計簿モニターについて、持続可能な対応方法の検討をすすめます。

#### ⑤. 自然環境の研究・交流

- ・自然環境部会にて、県下の自然環境に関する研究・交流をすすめます。
- ・おかやま環境シンポジウムの開催に向け、自然環境部会にて具体化します。

## ⑥. 助成事業

- ・市内の環境団体の育成と環境問題の研究に対して財政的な支援を図ります。
- ・助成報告会は、交流会、維持会員総会の要素を合わせ持つ交流事業として開催し、前年度助成団体による報告と意見交流を行います。2013年度以降のあり方について、運営委員会、助成部会等で検討をすすめます。
- ・2012年度新たに取り組む「協働事業（それぞれの資源や特性を持ち寄り対等な立場で協力してすすめます）」の成功に向け、関係団体との関わりを深めます。

【協働事業①】『NPO 法人里海づくり研究会議』と7月3日にシンポジウム「アマモと牡蠣の海～日生を里海に～」を実施します。

【協働事業②】『おかやまエコマインドネットワーク』と8月21日に「夏休み体験企画バイオマスエコツアー」企画を実施します。

【協働事業③】『千年の森づくりグループ』と9月29日に「千年の森づくり感謝のつどい」を実施します。

## ⑦. 行政、他団体等とのつながり

- ・行政等との日常的なコミュニケーションを強め、委員会などの場で役割を発揮します。

## 2. 啓発事業

- ・環境問題は複雑な問題であり、ほとんどの人は、持続可能な社会を実現していきたいと考えています。そして、その解決に向けて取り組んでいくべきだと考えています。しかし、取り組みの程度、タイミング、手法などの見方は、人によって異なります。そのギャップを少しでも埋めて、多くの人により良く諸問題を理解していくことを目的とします。
- ・問題のとらえ方は一人一人異なり、最終的には価値判断を伴う問題であるため、意見が異なっても当然であるということを前提に、広範にわたる複雑な問題を総合的にとらえ、より良い情報整理、より良い情報発信を行い、各人の意思決定をサポートしていくことを目指します。

- ・関心の喚起、理解の深化を通じ、具体的な行動を促します。
- ・2011年度まで4つに区分していた事業を、『市民のための環境講座』（旧：環境講座、テーマ別講座、自然災害からの学習・交流会）と、『体験プログラム』（旧：生物多様性の日記念ファミリープログラム、エコファミリー講座、テーマ別講座）の2区分とします。

### ①. 市民のための環境講座

- ・市民を対象に環境問題を正しく理解し、意識啓発や行動を促し、社会全体の持続可能性を形づくる基本概念を学ぶことを目的に開催します。
- ・重要と思われる課題や、これからの社会はどうあるべきかを考える機会として、市民により良い情報を発信できるよう、多数の参加をめざし、テーマ設定します。

### ②. 体験プログラム

- ・次世代を担う子どもの参加する取り組みを大切にします。
- ・自然にふれあい、親しみ、楽しみながら「自然との共生」「自然の大切さ」「いのちのつながり」を伝え、自然環境や普段の暮らしを考えるきっかけをつくることを目的に開催します。
- ・従来のおかやま環境ネットワークが全てを運営するスタイルから、協働事業を中心とした他団体との協働企画を模索します。

## 3. 法人管理・会計等

### ①. 公益財団法人への移行認定申請

公益財団法人への移行認定申請書類等の準備をすすめ、上期中に申請を行い、2013年4月移行に向けた諸作業を鋭意推進します。

### ②. 管理業務の効率化

会計業務等の管理業務の見直しをすすめ、作業の効率化を図り、新法人移行の適応を図ります。

### ③. 予算

予算は、収支均衡とし、コントロールします。